

たばこの需給動向

日本人の喫煙率（成人）は健康志向、高齢化等により低下を続けており、男性はピーク時（1966年）には83.7%であったが、2003年では48.3%に低下している。一方、女性は近年ほぼ横ばいを続けており、03年の喫煙率は13.6%で、男女合計の喫煙率は30.3%になっている（日本たばこ産業（J T）調査）。たばこの販売量は戦後大きく増大したが、喫煙者の減少等により97年度以降は減少しており、03年度の販売本数は2,994億本（5年前比▲11.1%）である。このうち国産たばこが72.9%、外国産たばこ（大部分が米国産）が27.1%であり、80年代後半より外国産たばこの輸入量が増大している。03年度のたばこ販売額は4兆660億円であり、このうち6割近くが税金である。

たばこは1984年に専売制度が廃止されたが、現在も日本のたばこ製造はJ Tが独占的に行なっている。その原料となる葉たばこは、02年において国産58,200トン、輸入が89,457トン（米国42%、ブラジル19%）であり、02年の国産割合は39%になっている。

国内の葉たばこ生産量は、たばこ輸入量の増大、喫煙量の減少等により減少を続けている。葉たばこの生産農家戸数は20,938戸、栽培面積は23,000haであり、産出額は1,093億円である（02年）。主な生産県は、宮崎、熊本、鹿児島、岩手、福島、青森、沖縄で、九州と東北でたばこ栽培が盛んである。生産された葉たばこはJ Tが契約に基づいて全量買い取っており、03年の価格は1,881円/kgである。単収を253kg/10a（02年実績）とすると、10aの葉たばこ栽培で得られる販売金額は48万円、所得は31万円（所得率65%）であり、葉たばこは農家にとって安定的な所得が得られる作物になっている。（清水徹朗）

